

KAEDDE

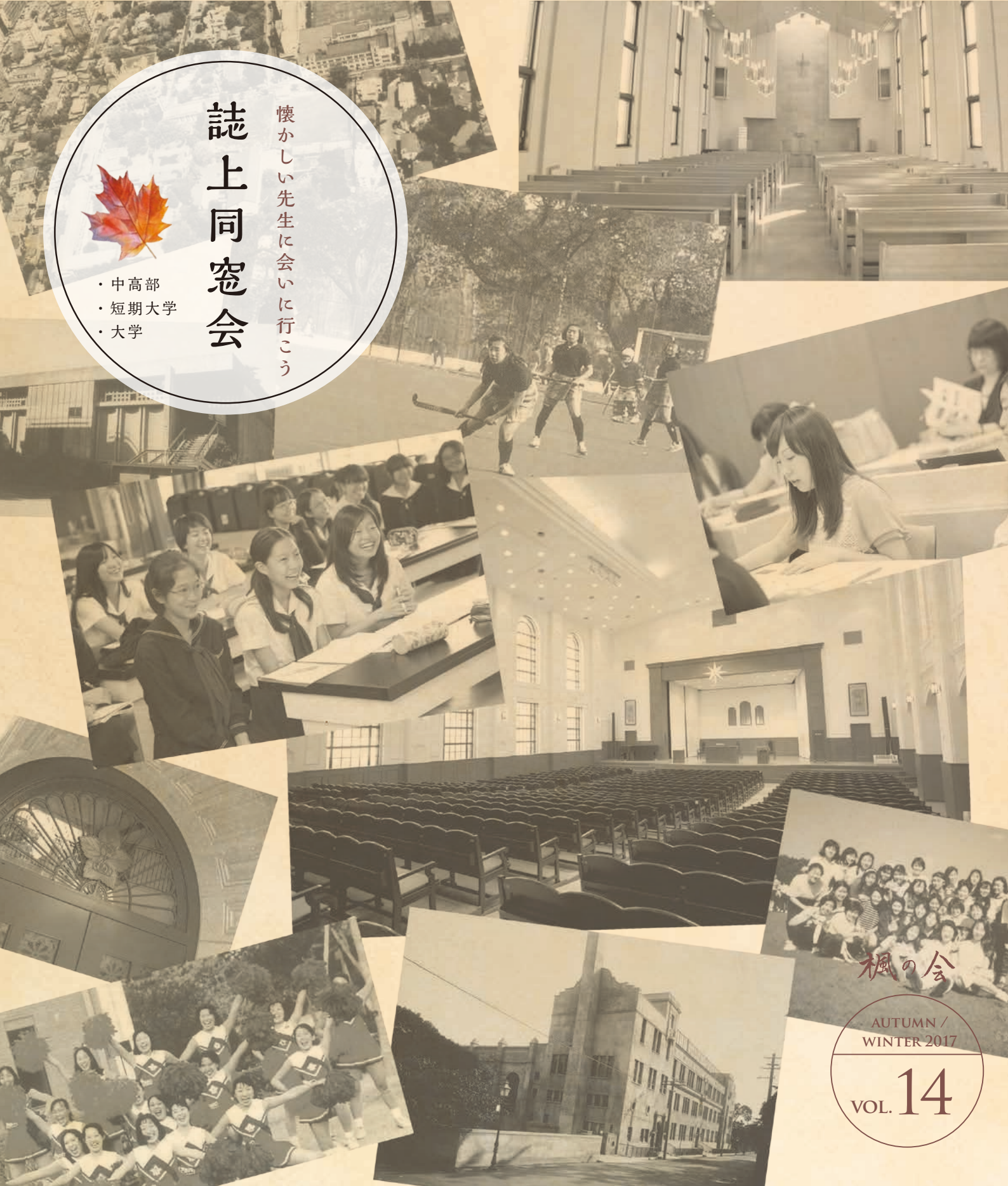


MAGAZINE

懐かしい先生に会いに行こう

誌上同窓会

- ・中高部
- ・短期大学
- ・大学



楓の会

AUTUMN /
WINTER 2017

VOL. 14

誌上同窓会

懐かしい顔ぶれが集い、思い出話に花が咲く同窓会。

当時は教師と学生や生徒の関係だった恩師と、大人同士として交わす会話は同窓会ならではのですね。

今回はそんな風景を誌上で再現してみました。

水野真紀さん

新富英雄先生

PART 1
短期大学

Junior College

東洋英和女学院短期大学は、1905年長野県上田市に発足した保姆伝習所にそのルーツを辿ることができます。50年日本に初めて短期大学制度ができた時に設置された保育科に4年遅れて54年に英文科が増設されました。その後、86年に横浜校地への移転と同時に国際教養科が新設されました。95年に大学短期大学部と名称変更され、98年にその役割を終え廃止されました。

長い歴史の中で巣立っていった数多くの卒業生。その一人が女優の水野真紀さんです。恩師である新富先生と当時の思い出を語っていただきました。

難関だった短期大学
推薦枠で入学へ

新富 今日はこちらに来る前、生涯学習センターの授業がありましたね。たまたまですが、受講生の中に水野さんと同期の短大卒業生がいて、これから誌上同窓会という企画で水野さんと会うんだと話したら、「美女と野獣の対談ですね」と冷やかされちゃって。

水野 まあ、そうなんですか(笑)。

新富 大学を定年退職した今も、こうして老いばれ教師として東洋英和にお世話になっていますが、私にとって短大時代というのは特別な思いがあって。今日はそんな良き時代を振り返る良い機会だと思って楽しみにしてまいりました。水野さんは学校推薦という形で東洋英和にいられたんです

今号の表紙

毎日の礼拝、思い出のつまった校舎、汗と涙のクラブ活動、友だちの笑顔、厳しくそして優しく先生…。年月を経て、人が年齢を重ね建物や街の様子が移り変わっても、あの時感じた思いは変わることはありません。同窓会とは、そんな思いを仲間や先生と再び確認しあう機会なのでしょう。

聖書の言葉

「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。」

マタイによる福音書6章33節

私たちを愛してくださる神さまのなさることが、何よりもよいことです。

私たちが求めるべきは、神さまの御心が行われること。この世界で、神さまの御心が行われるために用いて頂くことができるのは、私たち自身にとっても幸せなことです。

日本基督教団 鳥居坂教会 牧師 野村 稔

CONTENTS

02 特集
誌上同窓会

東洋英和ビジュアル歴史館 File.3

11 現存する最古の
学業証書授与式次第

13 EIWA Family 第11回
英和ネットワーク会

15 KAEDE People 第14回
花卉農家
戒能 菜々さん

17 東洋英和楓の会からのお知らせ

18 Event・Report・Topics



水野 真紀 (みずの まき)

1970年東京生まれ。東京大学教育学部付属中学校・高等学校を経て、90年短期大学卒業。1987年第2回「東宝シンデレラ」審査員特別賞を受賞後、NHK朝の連続テレビ小説『凛凛と』出演から本格的に女優デビュー。初代、パナソニック 電工「きれいなおねえさん」として人気を博す。1997年「わが心の銀河鉄道 宮沢賢治物語」で日本アカデミー新人俳優賞、2016年第3回食育文化功労賞受賞。

るところがありました。新富 ただ、そうした雰囲気は、水野さんの時代が最後だったと思います。当初は東京から来る学生がほとんどで、六本木校舎の名残を留めていたけれど、それが徐々に減っていった。大学が新設されてから神奈川周辺の出身者が多くなった。水野 青葉台への移転は、大学を視野に入れたことだったんですか？

新富 もちろんそうですが、残念だったのは英文科を大学の中に残せなかったことです。人間科学部と国際社会学部に吸収されました。時代の趨勢といえればそれまでですが、やっぱり寂しいことでした。

卒業前の大ピンチ！ 先生方の支えでクリア

水野 私にとって東洋英和との関わりは2年間だけでですけど、先生はずっと教えられていたんですものね。たくさん思い出がおりかと。

新富 ええ。特に短大は、私にとって一番良き時代でした。

水野 先ほども話したように、私は就職先が決まっていたので、その分、充実した学生生活を過ごせたと思いますが、実は卒業しても本当に仕事があるかわらなかつたんです。周りで就職が決まっていくなかで、独りどうしようかなと思っていて。そんなとき事務所から、NHKの朝ドラのオーディションの話を進めていると言われて、結局それが私にとっての就職活動になりました。最終的に大変いい役をいただくこと

よね。

水野 はい。私は、人生というのは縁と決断の繰り返しだと思っていて、東洋英和への入学のいきさつもまさにそれでした。というのは、東宝シンデレラオーディションで審査員特別賞をいただくまで、四年制の女子大に行こうと思っていって、でも、事務所から4年は長いと言われて、じゃあ短大にしよう。最初は一般受験を考えていたのですが、母校に東洋英和の推薦枠があることを知って。

新富 東洋英和の短大は、短期大学としてはかなりレベルが高かったんです。特に水野さんが入学された頃は、普通の四大に行くよりも難しかったと思いますよ。

水野 そう言われてましたね。特に親の評判がすごく良いんです。推薦で確実に行けるのだったら、素晴らしい学校だから行きなさいって。指定校推薦なので在学中は仕事ができないのですが、事務所も待ってくれるというし、2年間はきっちり勉強を修めるといって東洋英和に進学しました。

新富 1年生の必修科目だった英語の語彙力強化のための演習「語彙」の授業では「語彙表現」という体系的で骨のある教材でした。カリキュラムも4年間で学ぶことを2年間でやるうとしていたので、「東洋英和短大は、ミニ四大だ」なんて言われていました。

水野 大学生になったらみんな遊ぶものだと思っていたのに、いきなりそれが覆されて。授業でパンパン指されるので予習しなきゃいけないし、行きのバスの中ではずっと勉強していました。朝、家を出る時間

高校時代と変わらない。

新富 キャンパスが六本木から横浜の青葉台に移って3年目でした。通うにはたしかに大変な場所でした。

水野 勉強に集中できる環境ではありましたが。ただ、休み時間に気晴らししようと思っただけで、外に出て、なんにもない。もう学食しか行くところがないという(笑)。

英文科を大学の中に残したかった

新富 水野さんの学年の英文科は180名くらいだったでしょう。優秀な子、悪たれの子、まあいろいろでしたが、水野さんはもちろん真面目で優秀な学生でした。当時の英文科長だった中西先生も非常に筋が良いとおっしゃっていました。

水野 恐れ多いことです。新富 こういう場面だから謙虚におっしゃるけれど本当で



新富 知らない世界というのは？水野 たえば、いただきものをしたのでお礼状を書きなきゃと話している子がいて、ああ、何かいっただいたらそうするものなんだと思ったりとか。下から来た人たちがつくる英和カラーというものがあって、その空気にポワッと当たっていると、自然と影響を受け



面談指導とレポートの提出でなんとか対応してあげたらどうかという話になったんです。せっかく東洋英和からそういう人が現れて、羽ばたこうとしているときに、わざわざそれを無視することもないだろうと。水野 前例がないからダメだという意見もあったと聞きました。だけど、新富先生や中西先生がひとりひとり説得して回ってくださったと。

新富 まあ、本当に反対していたのは、数名の同僚でしたが。僕が感心したのは、ロケで多忙であったにもかかわらず、立派なレポートを仕上げ提出されたことです。中西先生も最初は本当に書き終わるかなと心配されていたけれど、見事にやってのけた水野さんはさすがでした。

水野 追試もあったんです。ロケ先でNHKの方に教えていただいたりしながら、試験勉強をしたことを覚えてます。とにかく、卒業しなければ母校に対して申し訳が立たないし、通してくださった先生方の顔を潰してはいけないと思って。責任としかいいようがないですね。

新富 ただ断っておきますが、ドラマに出るからということで特別扱いしたわけじゃないですよ。平常がちゃんとした学生だったから、同僚たちもこれは助けてあげないと、と一生懸命でした。そのあと水野さんは、とんとん拍子で売れて、女優として大成された。まあ、あのときのことを振り返ると、教授会でもめたりもして大変でしたが、良い思い出ですよ。

同窓だという思いを共有したい

水野 そうやって私のために動いてくださったこと、今でもとても嬉しく思っているんです。やっぱり、人に助けてもらった、優しくされたという記憶は、すごく支えになりますよね。誰かのために動くというこの大切さをあのときに学んだ気がします。

新富 そこは、敬神奉仕という東洋英和の教育に通じるものですね。僕自身は短期大学で一生懸命教えることができて、本当に満足しているんです。卒業生の中には、ア



よ。だけど、なくなってしまうことで、母校への帰属意識がだんだん薄れていくような気がして。新富 短大が存在していたこと自体が忘れられていくという心配もありますね。

水野 ええ。もうひとつ気になるのは、六本木と切断されていることなんです。私のように青葉台しか経験していない者からすると、同窓なので同じ思いを共有したいと思っても、どこか疎外感を感じてしまうというか...

新富 そこはずっと課題でした。すでに大学の卒業生の数は中高部の卒業生数を上回っています。その中で、どうやって東洋英和らしさを共有していくのかと。そういうこともあって、昨年度から大学の入学式を六本木で行うようになったそうです。やはり、ここに来ると歴史がある。青葉台に通う学生にも、いろんな人たちが関わってきた学院の一員であることを感じてほしいということなんですよ。

水野 考えてみれば「楓の会」がそうでした。楓の会、そしてこの会報誌のおかげで、一つ屋根の下にいる気持ちになれる。今回、こうした企画に呼んでいただいたことに大変感謝しています。

新富 僕にとっても今日はとても嬉しかったです。水野さんには、これを機に楓の会をどんどん活用してほしいし、ご協力もいただければと思います。

新富 英雄 (しんとみひでお)

1938年宮崎県えびの市生まれ。75年東洋英和女学院短期大学英文科に着任。英文科長を経て、97年東洋英和女学院大学人間科学部教授として移籍。人間科学部長、副学長を歴任し、2009年退職。09年6月東洋英和女学院大学名誉教授。

負け犬が傷を舐め合うのはみっともない

一生懸命練習していたわりには、私たち、なかなか試合に勝てなくて。先生は負けるによくブイッと帰られてました。で、あるときこうおっしゃったんです。「お前たち、そうやって負け犬が傷を舐め合うようなことをやっているのはみっともない」と。すごい悔しくて。今だったら「舐めれば傷が治るからいいじゃない」と言い返せるんですけど(笑)。

私たち小柄だったから、本当は先生もしょうがないと思っていたんでしょ。よく背の高い生徒に声をかけてスカウトしていましたから。

汗と泥にまみれてボールを拾った

バレーボール部に入学したのが、ちょうど東京オリンピックの年で。「東洋の魔女」がブームになって、私たちも上手くなりたから、大松監督の本を買って研究したりしてました。そんなとき、寺澤先生がバレー部の顧問になられて、回転レシーブを教えてくださいました。当時は体育館がなくて、練習は基本的に外。泥だらけになりながら、ボールを拾っていました。

初めての合宿は静岡英和と一緒に行きました。静岡英和のコーチが厳しくて、いかに私たちが寺澤先生に大切にされていたかよくわかりました。

山口礼子さん(1970年卒)

バレー部



Junior High school



PART 2 中高部

部活に捧げた

私たちの青春

卒業しても続く交流

寺澤先生は学校ではベテランの先生で、最初は怖いというか、近寄りたがたい雰囲気があったんです。でも、合宿で一緒に生活するうち、だんだんと人となりがわかってきて。1つ下にお嬢さんが入って来られてからは、先生がいかにお茶目か教えてもらいました。

担任の先生は毎年変わるけれど、部活の先生はあまり変わりません。長い時間を共有していると、いろいろな話ができるし、父親みたいな感覚になります。寺澤先生にも6年間で自分が成長していく姿を見ていただけたのではないかと思います。卒業してからも食事に行ったり、結婚式に来ていただいたりずっと交流が続いています。

冬の合宿で事件勃発?!

スキー部の活動は冬の合宿がメインで、それ以外は基本的に体力トレーニング。週1回体育館を借りて、筋トレやランニングで身体を動かしていました。

私たちがやっていたのはいかに無駄なく質の良い滑りができるかという基礎スキー。先生の他に専門のコーチもついて、レベルの高い指導をしてくださいました。寺澤先生はだいたいビデオを撮っていらっやいましたね。疲れちゃうからって(笑)。背が高いで迫力のある美しい滑りなんですけどね。あまり見る事が出来なくて残念でした。

合宿ではスキー以外にも挨拶や、5分前行動、スリッパ並べなど生活の規律には厳しかったと思います。あと、合宿中に先生が部屋でくさを焼いていたこと。何でもないとほけてましたが、宿舎中がすごい臭いになっていました(笑)。

太田真奈さん(1999年卒)

スキー部



おおた まな
旧姓：内田。97年度スキー部部長。スキー1級。現在は大田区の私立幼稚園で主任教諭。



スキー部の合宿で。中央が寺澤先生、左から2番目が太田さん。

先生より上級生に従う

私たち、上級生のおっしゃることには従いましたが、先生に対してはときどき反発していましたね。私たちのことをもっと考えてくださいって、みんなで団結して向かっていったこともありました。そんなとき、上級生が「先生には先生のお考えがあるから」と言って、私たちを諫めて下さったりして。部長さんはじめ上級生は歳が近いということもあって、先生とは友達みたいなところがあったと思います。

私たちに上級生は憧れの存在でしたが、先生に関してはちょっとどうでもいい感じがありました。日々の厳しい練習について行くのが精一杯でした。でもなぜか皆「先生も毎日練習に出なければいけない」と思っていました。ボールやコートと同じようにいつもそこにいらっやるべき存在で先生が練習に来られないとみんな「練習をサボった」と怒っていました(笑)。子どもだったんですね。

やまぐち れいこ
東洋英和高等部卒業後、大学でもバレー部所属。現在は川越市の失語症のデイサービスにて言語聴覚士として活躍。



Senior high school

スキー教室で子どもたちを指導

寺澤先生とのかかわりは、実は先生が小学部に移られてからの方が強くて。小学部でスキー教室を立ち上げられて、私たちはOGとしてよく手伝いに行っていました。夏期学校や部長室の引っ越しの時も駆り出されたりしましたね。寺澤先生は、一貫校だからそういう結びつきを大切にしたいとおっしゃっていました。子どもたちにとっておねえさんたちに教えてもらうという経験はとてもことになるからと。私にとっても、スキーを教える技術を学ぶことが出来ましたし、子ども達とのかかわりは今の仕事にも生かされています。

中高時代の学校生活で大きな部分を占める部活動。単純に日常の授業と比べると費やす時間は少ないけれど、濃密さは段違い。今回は、20年の時を隔てて同じ先生が部活顧問をした2人の卒業生に、部活とはなんだったのか、大人になったいま思うことを語っていただきました。

PART 3
—
大学

人生の道しるべとなった 進藤先生の教え

お集まりいただいたのは、影山絵美子さん（2004年国際社会学部卒）、
松下紗樹さん（2008年国際社会学部卒）、そして2人のゼミの恩師である進藤久美子先生。
影山さんと松下さんは今回が初対面だそうです、
それぞれ卒業後も進藤先生とコンスタントに連絡を取り合ってきました。
また、就職先が商社だったというのも共通点。
2人は学生時代に進藤先生に言われた言葉が、社会人になって道しるべとなっているとのこと。
そんな進藤先生の言葉をご紹介します。
題して「人生の道しるべとなった進藤先生の教え」。

University



※この写真は10年ほど前のものです。キャップ投げは現在禁止されています。

PART 3 UNIVERSITY

顧問もつらいよ



若かりし頃の寺澤先生の背中。
「あの時代は、僕も若かったし顧問としてもすごい熱量を注いでいましたね」。



寺澤東彦先生

てらさわ はるひこ
1943年長野県生まれ。65年東京学芸大学卒。同年中高校国語科教諭。89年評議員、96年小学部長・理事。08年定年退職。



年代は異なっても、先生を前に教室の椅子に座れば、あの頃と同じ感覚がよみがえる2人。

体育館で後輩たちの練習を見学。「部活の雰囲気っていつの時代も変わらないですね」。

東京オリンピックの翌年、新卒の国語科教師でありながらバレーボール部の面倒をみることになりました。当時のバレー部はよく練習し、夏休みも学校行事以外はほとんど練習。後に練習禁止期間が設けられたくらいです。10年ほどしてバレーボール専門の体育科教員が就任し、私はスキー部を創って顧問になりました。東京都スキー連盟に関係してからは教育部の専門委員に声をかけて、合宿の講師をお願いしました。
中高校では31年間、その後小学部長をして12年。運動部顧問であった日々は濃密な時間でありました。年間通して一緒に汗をかいたという体験がベースにあり、彼女たちと同様に私にとっても青春の日の良き思い出です。

PART 2 JUNIOR HIGH SCHOOL AND SENIOR HIGH SCHOOL

失敗を恐れずにやりなさい

影山さん(以下影) 進藤先生は、「あなたたちはできる、大丈夫だからやってみなさい」といつもおっしゃっていて。その言葉に勇気ももらい、いろんなことに挑戦しました。たとえば、大学4年生の時アメリカのユタ州にホームステイし、現地の小学校で日本のことを教える授業を担当させていただきました。黒い絵の具と筆を使って日本の書道を体験してもらったり、新築住宅やスーパールの広告を見せながら、日本の住宅の様子や日本の食生活についてお話をしたりしました。この時の活動がきっかけで、私の母校の小学校と、その小学校が姉妹校の関係になって。

進藤先生(以下進) 影山さんはもともと物怖じしない性格だったわね。さりとてやっ

のけちやう。
影 でも失敗も多いです。ユタで出来た大学生のお友達に、その子の通っている大学の(社会科学の)教授を紹介してもらい、その先生の授業を毎週聴講させて頂いていました。あるテーマについて発表する宿題が出て、翌週の発表の時間、一番に手を挙げて発表したのはいいものの、思いっきりテーマを外してしまって、他の学生さんと全く違うことについて発表してしまっただけもありました。今、二人の子の子育てや失敗を恐れない気持ちで育てることがいかに大事かと書いてある。それって、進藤先生が私たちにしてくれたことだったなと思います。

進藤ゼミを選んだ理由

影山絵美子さん

(2004年国際社会学部卒)

進藤先生が大好きだったからです。女性としての憧れや尊敬もあるし、結婚して子育てしながら仕事をされている姿を見て、私もそうなりたいた純粋に思ったから。また、先生自身の子育てや仕事に関するエピソードが面白くて引き込まれてしまうんです。卒業してからも年に1回は会いに行きます。渡米する前は、「あなたこのまま帰ってきちゃダメよ、必ず何か身につけてきなさい」と発破をかけられました。そんなことを言ってくれるのは進藤先生だけです。



松下紗樹さん(2008年国際社会学部卒)

先生のフレッシュマン・セミナーにいた時から、素敵な女性だなと憧れていて。早慶コンプレックスから私を解放し、留学とか広い世界に目を向けさせてくれたのも先生でした。大学時代に自分の意思でいろんなことに挑戦してやり切ったという自信が、社会人になってから何かあっても跳ね返せる力となっている気がします。いつかまた留学する機会があるかもしれない。そのときのために準備だけはしておきなさいという先生の教えが今も響いています。



英語の勉強だけはやりなさい



まつした さき(左) 現在、双日勤務。趣味はフランス語。この冬に結婚を控え、結婚準備に仕事にと多忙な日々を過ごす。

かけやま えみこ(右) 卒業後、三井物産勤務。ご主人の海外勤務により退社。現在は家族で米国ヒューストン在住。

松下さん(以下松) 私は大学受験で第1志望の大学に受からなくて、最初は本意な気持ちで東洋英和に通ってたんです。と、あえず隠れ浪人をして、1年経ったら受験し直すつもりでいました。そのことを進藤先生に話したら、「いいんじゃない?」でも、英語の勉強だけはちゃんとやりなさい。そうしたら世界が変わってくるかもしれないから」と言われて。それから、卒業生の話や人生の転機とかいろいろなることを先生が話してくださるようになって、次第に前向きに変わっていったんです。部活をやったり、仲間が増えたり、大学生活が楽しくなってきた。何をあんなに拘っていたんだらう

と、自分を客観視して考える機会を先生が与えてくれました。
進 私は、英和の英語を勉強したら絶対受かるからと思ってそう言ったの。だけど、2年になってもゼミにいないから、えっ?と思って。松下さんは本当に大学で変わったわよね。挫折をきっかけに奮起して伸びる子って多いけれど、その筆頭が松下さん。
松 英語を勉強するのは楽しいのでずっと続けています。今は第2外国語のフランス語を学び直していて。1ステップ上がるとさらにまた面白くなるというのが語学の楽しさですね。

不満があればきちんと文句を言う

進 松下さんは目的意識は持っているけれども、どこか遠慮がちなところがあったから、私は留学を勧めたのよね。で、交換留学でアメリカの大学に行くことが決まってる、出発する前にこう言ったの。「不満があったらちゃんと文句を言いなさい」って。
松 寮で騒ぐ人がいたんです。いつもはこれを言ったら気まずいかなと思って何もしてないのですが、進藤先生の言葉を思い出して、部屋を変えてほしいと訴えました。それから何か問題が起きる度、自分を変えるチャンスだと思って主張するようになりました。

会社で叱られても絶対に泣くな

影 先生が卒業の日までずっと言い続けていたことがあって。それは「社会に出たら男性の前で絶対に涙を見せちゃいけない」ということ。仕事ができなくて先輩に怒られたり、男性の上司に叱られたりしても、先生が泣いちゃダメと言うから、絶対にここでは泣かないと必死で堪えて、会社を出てから泣いたことがあります(笑)。
松 私も電車の中で泣いて帰った覚えがある。会社では我慢して。
進 職場とか公の場で女性が泣いた瞬間、

その人は男性と同等じゃなくなっちゃうのよね。何を言いたいのかという、私と同世代の女性たちは、スタート地点が最初から同等じゃなかった。今は違う。あなたたちには21世紀を生きる女性として、どんどん発展していつてほしいし、新しい生き方を示してほしいと願っているの。そのための第一歩は泣いちゃいけないことだと思って。でも、そのときは私も若かったのね。今は疲れているからそうは言わないと思う。泣きたい時は泣いてもいいのよって(笑)。

キャリアが途切れてもあきらめない

進 女性はライフステージが変わるとキャリアの選択を迫られることがある。影山さんもご主人の海外赴任が決まった時、仕事を辞めてついていくか、辞めずに別居して働き続けるか、2つの選択で悩んで相談に来たことがあったわね。
影 そのとき先生は自分からこうしなさいと言わなかった。後日、やっぱり辞めることにしたと伝えたら、「そうするべきだと思っていたのよ」って。授業で先生が、「女性は結婚して子どもを産んだりすると、自分のやりたいことができなくなる時がある。ただ、細くてもいいからずっと続けなさい」とおっしゃっていたことが印象的。駐在先では(この3年間で)アメリカ人の友達10家族と家庭学習のグループを運営するような活動をしてきました。そこで、英語を母国語とするアメリカ人が、子どもたちにとどのように読み書きを教えているか、英語で算数理科社会をどうやって勉強させているかを間近で見ることができて。



松 アメリカという国は、とにかく自分から言わないとダメなのね。私たち日本人みたいに人様に気を遣ったりしないから。どんなことがあっても黙ってはいけなくて教えたの。それをちゃんと実践した。アメリカでの1年間は良かったよ。本当に良い経験でした。

女子大のすすめ

女子大は意図的に入れている

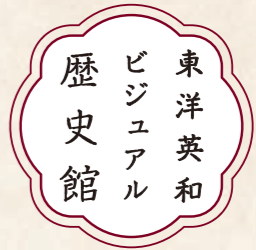
進藤久美子先生



女子大に入れるべきか、それとも共学か。もし女の子を持つ親御さんからそう聞かれたら、私は女子大は意図的に入れているところだと答えませう。というのは、共学というのは社会と同じで、最初から女子はここまで可能性が制限されていることが多い。一方、女子大は全部自分でやらなければならないけど、誰も頭を叩かないし、失敗して当たり前の世界。だから、のびのびと育つし、社会に出てから力を発揮できる子が多いんです。大学という重要な時期に社会と違う状況に置かれて、自分の中にしっかりと根っこをつくるには、女子大という選択は賢いんじゃないかなと思います。

しんどう くみこ

1945年高知県生まれ。ペンシルバニア州立大学・MA、立教大学・博士課程、法学博士(九州大学)。96年東洋英和女学院大学国際社会学部教授。専門は現代アメリカ社会。著書に『ジェンダーで読む日本政治』『市川房枝と大東亜戦争』『ジェンダー・ポリティクス』他。



File.3

現存する
最古の学業証書
授与式次第



1900年に完成した「石盤葺木造四階建」の新校舎

本年10月より、六本木校地の学院資料展示コーナーで、このプログラムの貼りこまれた初期スクラップブックをご紹介します。詳細は東洋英和女学院HPでご案内いたします。
<http://www.toyoeiwa.ac.jp/archives/>

1902年の学業証書授与式

ここにあるのは、1902年(明治35年)3月27日に挙行された東洋英和女学校学業証書授与式の式次第である。1884年の開校から18年目、マイラ・アビー・ヴィーゼー第八代校長時代のものだ。

わずか二名の生徒で発足した東洋英和女学校は明治時代の欧化主義の盛衰の中で生徒数を増減させながら創業期を乗り切り、学校制度を整備する形成期に入っていた。開校後十年以上を経て外国人宣教師に協力する日本人教師も増え、日本人も含めた学校経営に本格的に取り組む。キリスト教主義教育を守りながら、日本の女学校として社会の要請に適合した学校になるべく教育体制を樹立するための努力を重ねていた。1900年には「石盤葺(ス

レート)木造四階建」の新校舎も完成し、生徒数も順調に増え、前途に輝かしい未来を感じさせるのである。

さて、式次第を見ていこう。英語と日本語の併記はいかにも東洋英和らしい。タイトルに「学業証書授与式」とあるように当時は卒業証書だけでなく、学年の終わりに修了証書が手渡されていた。この年の卒業生は式次第に名前のある2名のみである。祈祷のあとに「君が代」、「勅語奉読」がある。ちなみに「勅語」とは教育勅語のこと。1890年(明治23年)に大日本帝国の教育の基本方針を示す明治天皇の勅語として発表された。

そしてプログラムは「洋琴独奏」へ続く。英語のプログラムを見ると、洋琴はピアノのこと、曲目はメンデルスゾーンの「慰め」だということがわかる。メンデルスゾーンの「慰め」は、現在も讃美歌30番の「あさかぜしずかにふきて」としてよく知られている。当時の学則の第十二条には、専修科として設けられた西洋音楽科について

楽器ハ「ピアノ」「オルガン」ノ二種トシ各四学級二分ツ
などにはじまり、練習時間、曲目に関することなど事細かに記載され、音楽教育に力を入れる様子が伺える。

そして、もうひとつ興味深いのが演説を行った「厳本善治(いわた 一人である。彼はキリスト教の精神から女性解放を説いた明治女学校の校長で、日本最初の婦人雑誌「女学雑誌」を発行していた。「女学雑誌」は北村透谷、島崎藤村などを輩出し、彼らは明治女学校の教壇に立ったことでも知られる。この雑誌には、東洋英和の記事もよく掲載されていたという。

このセピア色に変色した式次第からは、あの時代に生きた幾人もの人々の姿が立ち上ってくるのである。



Programme.		東洋英和女学校学業証書授与式執行順序	
1. Opening Prayer. Rev. D. Katano.	1. 祈 禱	波 多 野 傳 四 郎	
2. NATIONAL HYMN.	2. 君 が 代		
3. IMPERIAL EDICT.	3. 勅 語 奉 讀	龍 居 頼 三	
4. Piano Solo. Miss. Tori Uru.	4. 洋 琴 獨 奏	爪 生 と り	
CONSOLOATION—MENDELSSOHN.	5. 学 業 証 書 授 与		
5. Presentation of Diplomas.	6. 英 語 唱 歌	生 徒	
6. English Song. Trio.	7. 謝 辭 (卒業生)	伊 藤 久 子	
TWILIGHT—ABT.	8. 英 語 唱 歌	生 徒	
7. Japanese Essay. Miss. Kuni Kato.	9. 英 語 文 章 (卒業生)	山 田 久 子	
8. Music. Choral Class.	10. 遊 戯 唱 歌	幼 稚 生 徒	
THE LORD IS MINDFUL—	11. 祝 文 (高等科一年生)	寺 島 すすみ	
MENDELSSOHN.	12. ピ ア ノ 獨 奏	奥 野 み ね	
9. Valedictory—English. Miss. Koto Yamada.	13. 英 語 唱 歌	生 徒	
10. Kindergarten Song.	14. 等 節	生 徒	
11. Japanese Essay. Miss. Sumi Torashima.	15. 英 語 遊 戯 唱 歌	生 徒	
12. Piano Solo. Miss. Chuno.	16. 禮 儀 操	生 徒	
SOME MAZURKA. B. GODARD.	17. 演 説	嚴 本 善 治	
13. Music.	18. 唱 歌	一 同	
SONG OF THE BROOK.	19. 祝 禱		
14. Koto. Misses. Kuwabara, and Akagi.			
15. Motion Song. Primary Pupils.			
16. Calisthenics.			
CLUB. DRILL.			
17. Address. Mr. J. Swameto.			
18. Closing Chorus Japanese. School.			
BENEDICTION.			

資料提供: 東洋英和女学院史料室
史料室委員会発行の「史料室だより」が以下のURLから見られます。
<http://www.toyoeiwa.ac.jp/archives/publications/>

英和
ネットワーク会

卒業生の
パワーを集結

本間圭織さん（2003年卒）がデザインした英和ネットワーク会のロゴ。「E」の筆記体をイメージして作られている。

「気軽にホームカミングしたい！」「同窓生と交流したい！」
という思いでできた英和ネットワーク会。
高等部を1990年前後に卒業したメンバーが卒業後年を経て、2012年に立ち上げました。
卒業生同士のネットワークが広がり、思いもかけない化学反応が起こりそうな予感。
学年を超えた英和生同士のつながりが、今静かに、新しいウェーブを作り出しています。

2014の学院創立130周年の記念に東光会（高等部同窓会）が主催したMaple Festival（メイフェス）を覚えていた方も多かったろう。「Maple Festival 2014」は、東光会が毎年開催している「東光会のおどろき」の規模を拡げて「卒業生の楓祭」として開催したものだ。しかし、13年に、もうひとつの「卒業生の楓祭」があったことをご存知の方は、少ないかもしれない。

はじまりは、医師として勉強に仕事に忙しい英和と縁が遠のいていた村田さんが、誰か同級生に会えるかもしれないと、11年に東光会総会と同窓会総会を訪れたことだった。当時、村田さんは40歳。総会で、学院の職員をしていた同級生と再会する。「私は英和からしばらく離れていたのですが、東光会の活動内容もよく知らなくて。同級生が何をしていたのかも、まったく情報がありませんでした。総会で情報通の同級生から話を聞いて、みんな頑張っているんだなあ、と感心したのです。」

という気持ちにもなったと言う。しかし、既存の組織は敷居が高いというのが正直なところ。それからは、学年会や英和の集まりで、「何かやりたいね」と話すようになる。さまざまな分野で社会貢献をし、プロフェッショナルに活躍している人がたくさんいることもわかってきた。学年を超えて、英和生同士の交流を持たせたら、健康、仕事、趣味、育児、介護のことなど、さまざまなことが相談できるネットワークが作れるのではないかと、それはまた、私たちが愛してやまない英和スピリッツの継続と発展のための応援につながるかも、と話は盛り上がった。

12年の春から、賛同したメンバー数人で、計画が練り上げられ、そして、同年11月24日に中高部集会所で、「英和ネットワーク会」第1回集会を開催する。卒業生のトークゲスト2名（文字美術家の遠山由美さん、イベントコーディネーターの加藤牧菜さん）による講演会と交流会という内容だった。交流会では口コミで集まった130人が、名刺やPR物の



を交換しながら学年を超えて交流を深めた。はじめて会う人ばかりなのに、どこのテーブルでも笑い話がはじける。話が出てから半年で開催、というスピード感のある実行力が、この会の特徴だろう。

2代目会長（1代目はもちろん、村田さん）となった永峰さんいわく、「イベント開催は、イベントごとに会費を集め、その場で使い切り。余ったお金は寄付して終わり。資金



第2回「卒業生の楓祭」

第4回「英和生らしさを考える
パネルディスカッション」

今年度の第5回英和ネットワーク会は、「女性の健康」をテーマに、2018年3月11日（日）中高部集会所で開催予定です。FBをしている卒業生は、「英和ネットワーク会」を検索してグループに登録し、詳細情報をご覧ください。お問い合わせは、mail@eiwanetwork.jpn.org まで。



今回取材に応じてくれた中心メンバー。左から、会田紀子さん（89年卒、旧姓衛藤）、永峰あやこさん（90年卒、旧姓吉川）、渡辺敦子さん（89年卒、旧姓田中）、今井亜紀さん（90年卒、旧姓小林）、村田亜紀さん（89年卒、旧姓岩田）、三笠知世さん（1988年卒、旧姓藤山）、加藤牧菜さん（95年卒）。この他に世話人として、中村千賀子さん（64年卒、旧姓藤木）、津屋式子さん（85年卒）、本田薫さん（88年卒、旧姓浜田）、小池加奈子さん（89年卒、旧姓大澤）、松本郁子さん（89年卒）、早川真理さん（90年卒、旧姓林田）がいる。

の管理が発生すると世話人の負担が増えますから。この会は、世話人と呼ばれる中心メンバーが手弁当で運営しています。それだけに『無理をしない』のがモットー。世話人たちが自身が準備も当日も楽しむように心がけています。もちろんイベント直前は『エイヤ！』と頑張りますけど（笑）。もうひとつこの会の新しいところはフェイスブック（FB）を使ってネットワークを形成している点だ。「FBは第1回集会の後、すぐに立ち上げました。今では、約900人の参加者がいます。FBを使って告知をしたり、参加者を募集したりすることは、私たちの世代からできることだと思います」とメンバーの今井さん。そこからは新しい組織作りの形が見える。

そして、翌13年11月にネットワーク会の第2回集会として開催されたのが、前述の「卒業生の楓祭」である。FBで出展希望者をつのり、さらに口コミで広がり、当日はお店やブースが25、ステージ部門が6という立派なイベントになった。参加者数は300人超の大盛況。遊びに来ていた東光会の役員も、この実行力と運営力に舌を巻く。東光会でも翌年の学院創立130周年に「Maple Festival 2014」を開催するつもりで準備をはじめた時だった。メイフェスを手伝ってくれないかとの東光会からのオファーは、自分たちの活動を認めてもらえたと感じられる嬉しい出

来事だった。メイフェス実行委員会では、東光会、ネットワーク会、それぞれの強みを活かして動きは始める。この間のネットワーク会グループメールの数は1000通を超えた。メイフェスの入場者数は1300人に上り大成功を収めた。「準備はとても大変でしたが、お手伝いした私たちも、やり遂げた！という充実感を感じさせていただきました。」とメンバーたちは当時を振り返る。

その後も16年2月に、東日本大震災から丸5年を機に「大島花子チャリティコンサート」、17年3月にはパネルディスカッション「英和生らしさって？」と、1年に1度の割合で今まで4回のイベントを開催し、英和ネットワーク会の存在感は多くの卒業生が認めるところに。

最後に、これからの活動について会長の永峰さんに伺ってみた。「継続は力なりですから、1年に1回のイベントは続けていきたいです。たくさん卒業生にネットワーク会をうまく活用してほしいと思っています。最近では、もう少し若い世代が取り組んでいる中学部のキャリア教育のお手伝いにつながる動きも出てきました。これからもますます広い世代の卒業生がつながることのできる活動を目指したいと思っています。」

次のイベントは来年の3月11日に決まった。詳細は13ページ下部を参照のこと。

高3で選んだのは 進学ではなく就農だった

花卉農家

戒能菜々さん



新品種の花の栽培に 父と2人で取り組み

冬の収穫期の農家の朝は早い。6時に家を出て軽トラに乗り込む。ハウスに着いたら、まずは水やりや液肥の調節を行い、そのあと収穫。繁忙期には午後3時頃まで作業を続け、それを終えると出荷作業へ、というのが1日の大体の流れだという。

「遅い時は夜10時頃まで終わらないこともある。でも、つらいと思ったことはないです。むしろ充実していて毎日楽しい」と戒能菜々さん。

昨年、高等部を卒業し、出身地である愛媛県松山市に帰郷。JAS有機栽培青じその生産農家である父親を手伝うという形で就農して2年目になる。

菜々さんが育てているのは、愛媛県が開発したデルフィニウムの新品種。デルフィニウムは一般的に青色系だが、新品種はピンク色の花を咲かせるのが特徴だ。愛媛県はこれを「さくらひめ」と名づけ、特産品として売り出すために栽培農家を募集した。そこに菜々さんの父親が手を挙げたことがきっかけで、花づくりに携わるようになったのだ。

「新しい品種なので、特性がまだよくわからなくて。天候や温度によって花つから外していました。父がそうやって私に声をかけてくれたことは嬉しかったですね」

こうして進学するという選択はきっぱりと捨て、高校3年の長い休みごとに松山に帰り、父親の指導を受けながら農業を手伝うようになった。「父から言われたのは『ただ水と肥料をやるだけでは、いいものはいけません。植物の気持ちを考えて世話をしなさい』と。もともと花や生き物が好きだったし、実際に話しかけながら作業しています」

今年、高等部の卒業式の日、300束のピンクの花束が校舎を飾った。贈り主は菜々さんだった。英和生が華やかな気持ちで卒業していきけるよう、自分が育てたデルフィニウムを贈ることを思いついたのでという。

「今思えば、5年間英和で過ごせたことに感謝の気持ちがいっぱいあって。やっぱり私にとって英和は紛れもなく

きや背丈も変わってくるため、どうすれば安定してつくれるか、栽培方法を試しているところです」

収穫のピークは1月から3月にかけて。花は出荷時期が重要で、どんなサイズやシーズンに合わせて出すのかがいいか考えないといけない。プロモーションは基本的に県がフォローしてくれるが、販路の開拓は自分たちでやっていく必要がある。また、花づくりに関しては父親も経験が浅く、二人三脚で助け合いながら取り組んでいる状況だ。

「以前は父と一対一で接することがなくて。今は2人暮らしなので、次は何をつくらうとか、お互い考えていることをよく話し合っています。父は新しいことに挑戦していくタイプの人で、考え方に影響を受けることが多い。まずは私自身が自立して、1人でやっていけるようにならないと」

農家のなり手不足がどこも深刻になっている今、意欲的に農業を志す菜々さんのような存在は、とても頼もしく思える。

「地元で農業をやっている若い人はほとんどいません。もうすぐ20歳になりますが、農業を通じて同世代とのつながりができるといいと思います」

母校なんだと思います。それと、私はここで頑張っているよということも伝えたくて」

言葉で表現するのが下手だということ。菜々さん。花に託した思いはきっと言葉以上に伝わったにちがいない。

母校への感謝を込めて 卒業式に花を贈った

中学1年まで松山市にある私立女子中学校に在学。父親が東京でJAS有機栽培青じそ事業を立ち上げることに、一家で上京したのを機に、中学2年から東洋英和に編入した。「松山の中学にいた時、英語の先生が英和の卒業生で。その先生から英和の話聞き、興味をそられたので入学してみたいなと思いました」。しかし、震災の影響で事業の予定が白紙となったため、父親は松山に戻り、菜々さんと母親、弟、妹の4人は東京に残ることになった。

「家具も揃えた後だったし、また学校を変えるわけにもいかなかった。最初の頃は六本木がどういいう町かということも知らないで、おどおどしながら英和に通っていました。でもやっぱり人混みが苦手。こんな都会の学校に通うこと

自体、身の丈に合っていないんじゃないかと思ったり」

松山に帰りたいーそんな気持ちがよぎることも何度かあった。それでも部活の天文部は楽しかった。特に合宿だ。東京から遠く離れた長野や新潟で、仲間と一緒に流星群を見たり、一晩中星空を観測したりするのが好きだった。

卒業後の進路を考える時期になると、悩みが一層増した。子どもの頃から、のを作るのが好きで美術系方面に行きたいと考えていたが、進学するか就職するかで迷っていたのだ。そんなときに父親から連絡があり、県庁が新種の花の作り手を募集しているという話を聞かされる。「やってみんか?」という誘い心が動いた。

「小さい頃から父や母が働いている姿を見てきて、実は農業のことも気になっていたんです。でも、家の仕事は弟が継ぐという話になっていたの、進路



採れたてデルフィニウム。このピンクの花束が今年の高等部卒業式でたくさん置かれているのを見た読者もいるのでは。



花卉を栽培しているビニールハウス群。



戒能さんは、毎日ハウスの中で花に話しかけながら作業をしているのだという。



農場の前で。「普段はジャージにスニーカーなので、今日(取材日)はスーツで疲れました(笑)」。



三輪スクーターに乗るのも慣れてきた。「肥料等を農場内で運搬する時に使っています」。



かいのう なな
花卉農家(かきのうか)

2016年高等部卒業。卒業と同時に愛媛県で就農。現在は父親と花卉栽培に携わっているが、将来的には他作目にも手を広げたいと考えている。花卉農家としては「フラワーファクトリー つむぎ工房」という屋号を持ち、ホテルや結婚式場に直接出荷しているほか、日比谷花壇などにも卸している。

東洋英和楓の会共催イベントのお知らせ

「音楽のさんぽ道コンサート（秋の芸術公演）」



日 時：2017年11月23日(木・祝) 14時～16時

場 所：中高部 新マーガレット・クレイグ記念講堂

料 金：無料

共 催：東洋英和楓の会、(公財)港区スポーツふれあい文化健康財団

【申込方法】

下記事項を記入の上、メールにてお申し込みください。

名前、学院との関係、電話番号、人数(原則4名まで)

kaedenokai@toyoeiwa.ac.jp

電話・FAXでのお申し込みも受け付けます。

※電話での受付は9:00～17:00(土日・祝日を除く)

定員になり次第、締め切らせていただきます。

TEL 03-3583-3354 FAX 03-3584-5227

【申込期間】

2017年10月2日(月)～11月10日(金)

※お申込は楓の会会員に限ります。定員になり次第、締め切らせていただきます。

また、申込開始以前に頂いたお申込は受付いたしませんのでご了承ください。

今回のイベントは、2016年8月に港区と締結した連携・協力に関する基本協定もあり、公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団との共催で、音大生を招いたコンサートを開催します。



当日、「マグカップ」と「ストラップ」を販売いたします。ぜひお求めください。



Event

港区と東洋英和女学院の連携事業 村岡花子記念講座

『カナダと日本をつなぐ英語教育と文学の世界』



日 時：10月14日、10月28日、11月18日、
12月2日、12月9日 いずれも14時～16時

会 場：東洋英和女学院大学大学院201教室(六本木キャンパス)

申込方法：メール、FAX、往復ハガキにて、お名前・ご住所・電話番号・希望の回をご記入ください。

申込期限：各回開催日2週間前(先着順・各回200名)

問合せ先：生涯学習センター横浜キャンパス事務室
TEL 045-922-9707

Event

メサイアをうたう会 第22回女声3部合唱によるMessiah

11月19日(日)紀尾井ホール

開 演：13:30 開 場：13:00 料 金：3,000円(全席自由)

曲 目：G. F. ヘンデル Messiah

指 揮：田崎瑞博

S:佐竹由美 A:小川明子 T:辻裕久 B:牧野正人

合 唱：メサイアをうたう会

オーケストラ：東京バツハ・カンタータ・アンサンブル

問合せ先：メサイアをうたう会事務局
TEL 090-4018-3017

Event

第22回 東洋英和女学院 ハンドベルフェスティバル

11月18日(土)中高部 新マーガレット・クレイグ記念講堂

開 演：13:00 開 場：12:30

料 金：無料

小学部生、中高部生、生涯学習センター受講生、中高部OG、中高部教員、中高部母の会、さらにはお父様のチームに至るまで、東洋英和のハンドベルグループが一堂に集って行われるコンサートです。



Event

MASAMI A Heartwarming Concert 「心ときめく、ヨーロッパクリスマス」

12月22日(金)銀座ヤマハホール

開 演：19:00 料 金：前売6,000円

主な出演者：MASAMI(ソプラノ) ファビオ・リッツァ (ハーブ)

ザ・メイブルズ(合唱) 岡崎渚紗(ピアノ) 他

主な曲目：バッハ&グノー作曲アヴェ・マリア、ヴェルディ作曲「オテロ」アヴェ・マリア、「ナブッコ」行け我が想いよ黄金の翼に乗って他

問合せ先：ランプレッション TEL&FAX 03-5726-8957
impression@earth.ocn.ne.jp